ご挨拶

　この度、第5回JPC（日本パ-キンソン病コングレス）を10月13日（日）東京都港区浜松町コンベンションホールにて開催させていただく運びとなりました。
第4回はコロナ禍の問題もあり開催自体も危ぶまれましたが、多くの皆様に支えられながら無事開催することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

　パーキンソン病は現時点では治療方法が確立されておりません。
しかもゆっくりとではありますが病状は進む病気で『難病』に指定されています。
症状としては『震え』『すくみ足』や『筋強剛』、人によっては『睡眠障害』や『精神症状』などの非運動症状を発症する人もいます。
また病気を発症する年齢によって患者が抱える問題は全く異なっており、患者自身の症状やライフステージにより必要とする治療やサポートは一人ひとりバラバラです。
しかし私たち患者は『治らない病気』と向き合う現実の中で感じる『孤独』や『絶望感』という心の痛みは分かり合うことができます。そうした共感をベースに、患者同士がお互いの「経験・知恵」を共有することでこの病気と向き合うために必要な心構えや気付きにつながります。
家族には、その患者を一番近くで支え続けてきた「経験」があります。
そして主治医を中心とした医療関係の人たちには専門家としての「知識と技術」があります。
第5回のJPCは、その『知恵』『経験』や『知識』を知る機会や場所、患者同士、家族同士が『繋がる場の提供』することを目的の１つとして大切に考えております。

そこで今回のテーマは、
独りじゃない！『患者』『家族』『主治医を中心とした医療関係者』　三位一体でこの病気と共によりよく生きる　としました。
また、今大会では新たな試みとして高校生によるパーキンソン病に関する研究発表の場を設けます。非当事者である彼らがパーキンソン病患者の現状を社会課題として捉え、主体的に活動している姿は、同じ病気で苦しむ患者たちの背中を押すきっかけとなるはずです。
私ども JPC は、この様な大会の継続開催を通じ、社会にパーキンソン病を正しくご理解いただく事で、私たち難病患者をはじめ同様に「目に見えない心の痛みを抱える多くの患者」の生活環境改善の一助になれればと思っております。

　多くの皆様に支えられながら第5回を迎えるわけですが、JPCの大会は患者による患者のための学会であると同時にその様な社会貢献の一端としてお考え頂きます様、お願い申し上げます。

2024年7月吉日
第5回ＪＰＣ（日本パーキンソン病コングレス）
大会長　　早川　有信